

たい肥と土壌養分分析に基づく 調整施肥設計システムの成分分析項目について

本システムを活用するためには、作付け前に必ず土壌分析とたい肥分析を行う必要があります。施肥設計に必要な分析項目と分析法（一部）を以下に示しました。

・土壌成分分析項目

1. pH (H₂O)
2. EC
3. 乾熱アンモニア態窒素^{注)}
4. 乾熱硝酸態窒素^{注)}
5. 熱水オートクレーブ抽出窒素^{注)}
6. 可給態リン酸
7. 交換性カリ
8. 交換性マグネシウム

・堆肥成分分析項目

1. 水分
2. 灰分
3. pH (H₂O)
4. EC
5. 全窒素
6. 全炭素
7. 発芽率
8. 酸素消費量
9. 塩酸抽出アンモニア態窒素^{注)}
10. 塩酸抽出硝酸態窒素^{注)}
11. リン酸
12. カリ

酸素消費量、熱水オートクレーブ抽出窒素は必須ではありませんが、無機化率および有効態窒素量の推定精度が高まります。

注) 以外の分析項目は「堆肥等有機物分析法」、「土壌、水質及び植物体分析法」に準じます。

乾熱アンモニア態窒素、乾熱硝酸態窒素：

風乾、篩別（2mm 目）した土壌 1g を 105℃ で 24 時間加熱後、塩化カリウム 10ml で抽出したる液に含まれるアンモニア態窒素、硝酸態窒素を意味しています。両者の含量が乾熱無機態窒素です。

熱水オートクレーブ抽出窒素：

風乾、篩別（2mm 目）した土壌 14g に水 70ml を添加したものをオートクレーブ処理（105℃、1 時間）したる液に含まれるケルダール窒素を意味しています。

塩酸抽出アンモニア態窒素、塩酸抽出硝酸態窒素：

風乾、粉碎（2mm 目）したたい肥 2g を 0.5M もしくは 1M 塩酸 20ml で抽出したる液に含まれるアンモニア態窒素、硝酸態窒素を意味しています。両者の含量が塩酸抽出無機態窒素です。注) 鶏ふんたい肥は 1M、その他は 0.5M 塩酸を使用

施肥設計の結果はあくまで参考としてください。

当ソフトの著作権は財団法人 畜産環境整備機構 畜産環境技術研究所にあります。

無断転用を禁じます。

本システムのお問い合わせ先

財団法人 畜産環境整備機構 畜産環境技術研究所

〒961-8061 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原 1

電話 : 0248-25-7777

F A X : 0248-25-7540

メールアドレス : ilet@chikusan-kankyo.jp